

INTERNATIONAL MONETARY FUND

WORLD BANK GROUP

INTERNATIONAL BANK FOR RECONSTRUCTION AND DEVELOPMENT
INTERNATIONAL FINANCE CORPORATION
INTERNATIONAL DEVELOPMENT ASSOCIATION
INTERNATIONAL CENTRE FOR SETTLEMENT OF INVESTMENT DISPUTES
MULTILATERAL INVESTMENT GUARANTEE AGENCY

J

Press Release No. 3 (J)

September 19–20, 2006

Address by **PAUL WOLFOWITZ**,
President of the World Bank Group,
to the Board of Governors of the World Bank Group,
at the Joint Annual Discussion

繁栄への道

ポール・ウォルフowitz

世界銀行グループ総裁

年次総会スピーチ

2006年9月19日

シンガポール

序文および謝意の表明

議長、総務の皆様、そしてご来賓の方々

私は、国際通貨基金（IMF）と世界銀行グループの年次総会に出席できますことを誠に嬉しく思います。総務の皆様をはじめ、今回の総会の開催国として準備にご尽力くださったシンガポール政府そして国民の皆様、また、重要課題の検討に主導的役割を担われたアルベルト・カラスキージャ開発委員会議長に対し、心から感謝の意を表明します。

1年余りにわたり総裁を務めさせていただきましたが、その間、世界銀行グループによる融資は過去最高額を達成することができました。国際開発協会（IDA）は、貧しい人々を支援するために過去最高の95億ドルを提供し、その半分がアフリカに対するものです。

国際復興開発銀行（IBRD）による中所得国を対象とした融資は、過去7年間の最高水準である142億ドルに達しました。多数国間投資保証機関（MIGA）の投資保証業務は13億ドルに上りました。世界銀行グループ最大の増加を達成したのは国際金融公社（IFC）で、民間セクター向け支助が前年比25%増しの67億ドルへと飛躍しました。

そして、昨年の実績を語る上で決して欠かすことのできないのがマルチ債務救済イニシアティブ（MDRI）です。この画期的コミットメントは、世界の最貧国において切望されている債務救済を実現するものであり、その分の資金をミレニアム開発目標の達成に注ぎようになります。むしろ数的向上だけで

なく、質的改善も引き続き進める必要がありますし、パートナー機関との協働を進めていかなければなりません。とはいえ、今回の数的な前進は喜ばしいことであり、実現のためにご尽力いただいた方々全員に感謝を申し上げます。

さらに、IMFのロドリゴ・デ・ラト専務理事におかれましては、世界銀行とIMFの両機関の友好的関係構築と緊密な協力を推進してくださいました。ここに感謝申し上げます。そして、理事の皆様に対しては、難しい課題を含め、ご指導とご支援を賜りましたことに感謝の意を表します。

そして何よりも、世界100カ国以上で、またワシントンの本部で職務を果たしている献身的な職員の皆様へ感謝を申し上げたいと思います。そのプロフェッショナルリズムとコミットメントのおかげで、昨年1年間、世界銀行グループにとっても、また世界中の貧しい人々に希望と機会をもたらすというわれわれの使命にとっても、大きな前進を実現することができました。

歴史的な貧困削減の歩み

本日、われわれはこの壮麗なるコンベンションセンターに集まっているわけですが、そもそもなぜここに集まっているのか、その理由を見失ってはなりません。それは、この建物を一歩出れば、そして世界のあちこちにも、1日1ドル未満でかろうじて生き延びている人々が10億人以上もいるからです。そうした人々は今日も、空腹や病気を抱えたまま夜を迎えるのです。5つ星の最高級ホテルで過ごすわけではありません。それでも今、われわれが目にしていく豊かな世界は、貧困を脱け出し繁栄へとつながる道が確かに存在することを実感させ勇気を与えてくれるものです。

41年前、シンガポールは独立し、先行きの見えない中、将来に向かって船出しました。失業率は高く、産業もなかったため、前途は厳しいものでした。リー・クアン・ユー首相はその日のことをこう記しています。「未知の目的地に向かって、道しるべもない中を進まねばならず、戦栗を覚えながら旅路をついたのだった」

けれども、われわれの場合、目的地は明確です。貧困から繁栄への道を歩んだシンガポールの目ざましい発展ぶりは、東アジアをはじめとする世界の多くの国々からも注目されるようになってきています。

過去25年間に貧困から脱した人々は世界中で4億人を数えており、貧困との闘いの歴史において最も大きな成功を収めた期間となりました。

国によって各々独自の道を見出さなければなりません。文化や信仰、コミュニティや国の違いにかかわらず、人々が追い求める夢は同じです。それは、学校教育を受け、よい仕事を確保し、子供たちのためによりよい未来を遺すことができるようになることです。

アフリカ：好機を捉えるために

昨年、私は、アフリカを最優先課題とすべきだと申し上げました。それは、アフリカが、現在の目ざましい発展から著しく取り残されている地域だからです。

アフリカを最優先としなければならないという考えは今もまったく変わっておりません。しかし、この1年間にアフリカ10カ国を歴訪してみた今、この地域には援助が切望されてはいるものの、同時に間違いなく好機も認められると申し上げたいと思います。

6年間で、紛争国の数は13カ国から5カ国に減りました。もちろん、スーダンが例外であり、こうした望ましい動きとはかけはなれた惨状が続いています。ダルフル地区で絶望的な状態に置かれている貧困層は熾烈な殺戮の危険にさらされています。国際社会は今すぐに断固たる行動を起こし、このような暴力に終止符を打たねばなりません。

しかし、シエラレオネや、リベリア、コンゴ民主共和国(DRC)、中央アフリカ共和国での最近の事例が示すとおり、国家が危機を脱け出しから立ち上り、発展への道を歩むときには、新しい障害に直面することになります。こうした国家の指導者たちには、国民の生活を向上させ、未だもろい状態にある平和を安定させるため、迅速に行動することが求められます。また、われわれ国際開発コミュニティもこれらの国々の指導者を支援するためにより速やかに動く必要があります。世界銀行のある国別局長は、これらの国々には「電話帳のように分厚く、理解しがたい政策文書を1年半後に届けても全く意味がない」と語っていました。

リベリアでの例を挙げると、われわれは業務の迅速化に向け努力しています。具体的には、道路、港湾、空港を再構築し、リベリア国民に水と電力を供給するために、効果の高いグラント6700万ドルを提供しました。

レバノンについても同様の支援が求められています。

アフリカの一部には、発展がさらに進んだ段階にある国々もあります。過去10年間に一貫して年間成長率4%以上を維持してきた国々は17カ国に上り、中には実に7-8%の伸びを示した国々も含まれています。こうした国々の開発担当者こととしての課題は、成長を加速させると共に、他の国々も同じように繁栄に向けて歩み出せるようにすることです。

アフリカ・アクション・プラン: これまでの歩み

世界銀行グループでは、アフリカにおける課題に対応するため、アフリカ・アクション・プランを策定しました。一年が経過した今、民間セクター開発への支援拡大、地域インフラも含めたインフラ格差の縮小、保健と教育面の改善の各分野においてわれわれの支援拡大に進展のあったことをご報告いたします。来年には、主要分野である農業においてさらなる進展をご報告できるものと期待しています。

インフラの弱体化は、アフリカ全土で事業拡大の足かせとなり、国際市場での機会を奪ってきました。今日、中央アフリカで事業を展開すると、コンテナひとつを輸送するのに中国で同じことをする場合の3倍以上を支払わねばなりません。つまり、アフリカでは、舗装道路の整備が文字通り、貧困から脱出するための道を提供することになるのです。

世界銀行は、アフリカの人々が電力、水道、輸送をもっと利用できるようにと活動しているアフリカのパートナーを支援しています。昨年だけをとっても、世界銀行のインフラ投資は15%増大しました。

アフリカのための斬新なインフラ改善計画に事欠くことはありません。ただ、それを実施するための資源が十分でないだけなのです。

アフリカの幼い子供たちにとって、貧困から脱け出すための道は教育を受けるところから始まります。しかし、いまだにあまりにも多くの子供たちが小学校にすら通えないでいます。さらに、アフリカ大陸全体で、エイズとマラリアという死亡率の高い2つの疾病が貧困克服を妨げる大きな障害となっています。

万人のための教育のファスト・トラック・イニシアティブは、数多くの国々に対し、特に女子の小学校就学率を高めるための確実な計画を策定するよう奨励するもので、対象国の半数以上がアフリカにあります。このイニシアティブでは、もし—これが大切なのですが—もし、パフォーマンス改善に必要な金額を満たせるようドナーが拠出金を増額すれば、学校に通いたいと望む60カ国、7000万人の子供たちの夢をかなえることができるようになります。

われわれはまた、HIV/エイズと闘う世界的取り組みにも参加しています。この取り組みにより、わずか2年間に、治療を受けられる人の数が8倍に増えました。それでも、治療が必要な人の80%が今も取り残されたままです。すべての人々が治療を受けられるようにするには資源が必要です。

そしてマラリアは、なおもアフリカで最も死亡率の高い疾病のひとつです。世界銀行の新しい「マラリア・ブースター・プログラム」は、子供3000万人を含め合計1億2500万人以上の人々に手をさしのべることを可能にするものです。タンザニアでは、蚊帳を買うは生まれて初めてだという女性に出会いました。5人の子供がいて、幸運なことに誰もマラリアの犠牲にはなっていないとのことでしたが、アフリカの子供たちの運命を運だけにかかせることはできません。世界銀行の支援により、1000万回以上の蚊帳と1500万回分以上の抗マラリア薬が、この若い母親のような人々に配布される予定です。

先週ダカールで行われた会議では、ドナーに対し、これまで以上の協働性と透明性をもってマラリアと闘ってほしいという強い訴えがありました。われわれは、蚊帳や抗マラリア薬、屋内用殺虫剤の使用状況を追跡するためのシステムを立ち上げしているところです。しかし、サービスの行き届いていない場所を特定し、格差を解消するためには、すべてのドナーの活動を共通の追跡システムで把握できるようにする必要があり、それを実現するには皆様のご協力が必要です。

規模の拡大

われわれの前途は確かに困難ではありますが、もっと素早く動く機会も確かにあるのです。

しかし、グレンイーグルズでの公約からわずか1年を経た今、国際社会はアフリカへの援助増設というコミットメントを果たせない恐れがあります。

アフリカ諸国は実体のない約束を頼りに開発を進めることはできません。2010年までにアフリカ向け援助を倍増するという約束を富裕国が破棄するのであれば、アフリカの未来を託すことのできる一番の希望、すなわち、アフリカの人々のニーズに応えられないことになるのです。

最貧国に対する国際開発協会（IDA）の支援はこれまでにない高水準にあります。先月、世界銀行グループからIDAに対して行われたおよそ10億ドルの利益供託は過去最高の金額です。しかし、IDAの支援に対するニーズはなおもそれを上回っており、われわれだけでその差を埋めることは不可能です。

IDAの第15次増資に関する話合いが来年始まります。アフリカ全体で成長の兆しが見え、新規資金を要望する国数が多いことを踏まえると、増資額についてはアフリカの人々の抱負と希望に見合うよう高い目標を掲げなければなりません。

世界規模の責任を担う国際機関

中所得国

アフリカはわれわれの最優先地域ですが、唯一の優先地域とすることはできません。今日、世界の貧困層の3分の2は、アジア、ラテンアメリカ、中東の中所得国に暮らしています。また、ブラジル、中国、インドで暮らす最貧困層の人々の数は、サブサハラ・アフリカの最貧困層の2倍近くに達しています。

中国西部の甘粛省を訪問してみると、洞窟で暮らす家族がいました。ブラジルでは、サンパウロの貧民街の雑踏の中を歩いてみて、わずかに数ブロック先の富裕な住宅街とはあまりに対照的なのに驚きました。

これらの国々に住む貧困層には潜在的な強みがあります。それは、これらの人々が住んでいる国では、民間セクターが成長しつつあり、政府には資源が豊富にあり、資金調達が容易にできるからです。こうした国々の政府が世界銀行から借入を行う際には、迅速でカスタマイズされたサービスはもとより、柔軟性、低コスト、簡素化された手続き、世界銀行の知識やノウハウへの容易なアクセスも要求してきます。

IBRDのパートナーへの対応に関する世界銀行グループの新戦略には、各国の期待に応えるための提案が幅広く盛り込まれています。中所得国に効果的に対応するには、歳月を重ねるごとに洗練されていく相手の歩調に合わせるべくわれわれも努力をする必要がある点が認識されているのです。

世界規模のリスクの管理

貧困を脱け出し繁栄への道を歩む人々が増えるにつれ、公共財の需要は、世界中で低下するどころか、高まりを見せるでしょう。こうした世界規模の問題には、世界規模の解決策と世界規模の資源が必要となります。鳥インフルエンザにも、クリーンエネルギーの必要性にも、そして天災による被害にも、国境はないからです。

今日、世界銀行グループは、富裕国と貧困国の両方が直面するこうした課題に対応するための資金を調達し、それを管理するという国際的な活動の第一線にいます。危機に瀕する国々から、民間融資にアクセスできるようになりつつある国、そして世界の先進国にいたるまで、繁栄の度合いに違いはあっても

、世界規模で資金を動員し、管理のできる機関が全世界から求められています。われわれ世界銀行グループは、こうしたニーズに応えられるだけの豊かな経験と優れた能力があると自負しています。

繁栄への道: いかに到達するか

グッドガバナンス

繁栄への道を歩むには、グッドガバナンスという堅固な基盤が必要だという認識が、今や世界中、とりわけ途上国の間で、高まりつつあります。「ガバナンスが適切でなければ、どのような改革も限られた影響しか与えられない」。これは、昨年のアフリカ委員会が出した結論です。こうした見解は、路上にて、あるいはタクシーの中で、さらには官庁の大理石の玄関でも、貧民街のバラック小屋でも、共通していました。

開発に携わるわれわれにとって、グッドガバナンスとはそれ自体が目的ではなく、貧困から脱却するための礎だと考えます。それがあって初めて、成長は迅速かつ確実に進み、開発資金が1ドルたりとも無駄にされることなく、貧困や飢え、疾病と闘うために使われるようになるのです。

ますます多くの国において、指導者や市民が、透明性と説明責任を備えた政府が結果を出すことを要求するようになってきています。そうした要望に応えようとするとき、国によってガバナンスの問題が異なる点を認識し、それを考慮した上で支援を行わなければなりません。万能型の対応法では全く役に立たないのです。

さらに、ガバナンスの改善には時間が必要であり、一夜にして解決できるものではないことも忘れてはなりません。

われわれの戦略は、ガバナンスの強化や汚職防止の取り組みにもっと深く関与するよう要求するものです。どのように難しい環境にあっても、こうした姿勢をくずさず、議会、司法機関、報道機関など、政府とシビルソサイエティの両方で最善の改革を追求・支援しなければ、貧しい人々のために成果を上げることではできません。

国際機関である世界銀行グループは、各国に対し、他国の経験から学んでもらう機会を提供することができます。チリ、インド、メキシコ、韓国では、透明な電子調達システムを利用することで、公共調達コストを低減し、何十億ドルもの歳入を削減しました。開発途上国にすれば、こうして節約した資金は、教材や薬、基本的な公共サービスの資金として利用することができます。

インドのバンガロールでは、ある市民団体が成熟評価書を利用して公共サービスの質を評価し、公務員の説明責任を追及しています。こうした評価の結果が一般に公開されることで、政府のパフォーマンスが向上し、電力サービスや公共病院の利用者の満足度が一気に高まりました。

われわれには、他の国際機関や二国間機関と協力していくことも必要です。この精神ののっとり、今週、他の国際開発金融機関との間で、不正や汚職と戦うために情眼を共有するという画期的な合意に至りました。

最後に、富裕国も汚職との戦いにおいて重要な責任を担っていることを忘れてはなりません。それは、富裕国側から流れることの多い賄賂について措置を講ずると共に、途上国パートナーが盗まれた資産を回収する際に支援を行うことを意味します。

どの貧困国、都市、村においても、教科書を必要とする子供たちや、赤ん坊のための保健医療を必要とする母親、家族を養うために職を探す人々がいます。われわれは、世界銀行出資国のみならず、世界中の何百万人という貧しい人々に対して、世界銀行に委ねられた開発資金が、世銀協定の規定に従って、確実に本来の目的に使用されるようにするという責任を負っています。

力強い民間セクター

東アジアの経験が示すように、貧困脱却の度合いにかかわらず、雇用を創出し、発展の原動力となるのは、民間セクターのエネルギーとそこで働く人々です。

数か月前、グアテマラのチマルテナンゴで、IFCの資金を受けた農業協同組合を訪れる機会がありました。私のスピーチに集まってくれた農夫たちは、わずか10年前まで農業でかろうじて生計を立てていたのが、今では、果物や野菜を育てて世界的なチェーン店に出荷しているというのです。女性の多いこうした小規模生産者は今や最高で毎月、グアテマラの月間賃金の4倍に相当する800ドルを稼ぎ出しています。

IFCは今年設立50周年を迎えます。現在、IFCは世界規模で運営されており、貧困者のために機会を創出する事業に携わっています。IFCによる投資はその1ドルに至るまでが、何百万という企業に対する他の事業からのより多額の投資を誘引する『呼び水』となっています。

貧困国の大半では、過剰な事業規制が起業家にとっての大きな負担となっています。IFCの報告書「ビジネス環境の現状」には、この負担を排除し雇用を創出するための改革のロードマップが政府指導者や政策担当者に示されています。

事実、アフリカは昨年、世界で最も急速に改革を進める地域の一つとして浮上しました。タンザニアとガーナは世界の改革実施国トップ10位に入っています。

開発のための貿易

グッドガバナンスと起業家のエネルギーは、開発に向けた歩みを進める国家にプラスとなり得ます。しかし、いくら目的地についても製品の販売先がなければ、零細起業家や貧しい農夫は行き詰ってしまいます。彼らは、生活向上と貧困脱却のために市場へのアクセスと貿易を必要としているのです。

今日、よりよい未来というこの約束も危ういものとなっています。ドーハラウンドで硬直状態が続いていることを踏まえると、われわれは新しいアイデアを考慮し、この交渉の関係者全員が妥協する必要性を受け入れなければなりません。米国は、貿易を歪めている農業補助金のさらなる低減を受け入れる必要があります。欧州連合は、市場アクセスの障害を削減する必要があります。そして中国、インド、ブラジルなどの途上国は、製品への関税を低減する必要があります。途上国はまた、低所得国間の直接貿易を難しくする貿易障壁を撤廃する必要もあります。

ドーハラウンドの成功は不可欠であり、最貧困国を勝者として浮上させなければなりません。昨年の香港閣僚会議では、「無税・無料」の市場アクセスが提案されましたが、これとて、関税税率と原産地規則をもっと緩和する必要があります。

われわれは、好機が閉まってしまわないうちに、今すぐ行動をとらなければなりません。

* * * *

5カ月前、メキシコで最も貧しいグエレロ州を訪れたとき、私は、家族で初めて通学の機会に恵まれたという子供たちに会いました。貧困から脱け出した明るい未来を夢見る一人の少女の言葉が今も私の耳から離れません。先住民の言語「ナワトル語」で詩を朗読しながら、この少女はこう言ったのです。

「私は何もかも変えてしまいたい。なぜなら私は土を耕す人が好きだから。耕す人の流す汗が国土を豊かにしてくれるから。そして、トウモロコシや豆、ジャガイモを育ててくれるから」

少女は続けてこう言いました。「私は何もかも変えてしまいたい。なぜなら私は、まだ存在しない世界が大好きだから。そこではパンを焼いたらそれを食べてもいいし、農夫は、『死』ではなく『生』を培う人だから」

議長、総務の皆様、そしてご来賓の方々。

メキシコからモンゴル、マラウイに至るまで、機会さえ与えられれば一生懸命働きたい貧しい暮らしから脱け出したいという貧困者は何百万人もいます。貧しい人々の願いを妨げているのは彼ら自身のパフォーマンスではありません。彼らを取り囲む周囲の状況が問題なのです。それは官僚主義から、穴だらけの道路や保護主義的市場に至るまでさまざまです。

われわれの使命は、貧しい人々が自分の運命を自分の手でコントロールできるよう、行く手を開き手助けをすることです。今われわれの目前にあるこの歴史的な機会を決して見逃してはなりません。ご静聴ありがとうございました。